

教育システム若手の会 NagoNago2001
電気通信大学大学院博士課程2年 加藤由香里

研究テーマ

「学術論文の講読における視覚情報の活用について」

○ 研究の概要

本研究は、日本語学習者を対象として内容理解と図表情報の活用の関係を明らかにすることを目的として、2種類の実験を行った。実験1では、図表呈示の有無が内容理解に与える影響を検証するために図表呈示群・非呈示群を設定して比較実験を行った結果、図表呈示が必ずしも内容理解を促進しないことが明らかになった。

さらに、実験2では、2種類の内容理解問題（文章再生課題・問題解決課題）を設定して、日本語能力の相違により、図表呈示の効果がどのように異なるかを明らかにすることを試みた。その結果、文章再生課題よりも問題解決課題において、図表の呈示が内容理解を促進しないことが明らかになり、その傾向は、日本語能力の高い学習者より低い学習者に強くあらわれた。

○ 10年後の教室を想像して

10年前から日本語教育に関わるようになって現在に至っています。おそらく10年後も、留学生を相手に日本語を教えていると思います。10年前と今を比べて、何が変わったでしょう。同じ教科書を使い、同じ内容を教えています、対象とする学習者は大きく変わりました。多くの教師は以前と同じように教え、学生が勉強しなくなったと嘆き、一方、学生は、いつまで経っても上達しないと不満を抱くようです。教師と学生がお互いに理解し合えずに、自分のやっていることに疑問をもったり、相手に責任を押し付けたりするようなどころもあります。もう少し、前向きに取り組めないものかと考えさせられます。教師は自信を失い、学生は無気力になっていきます。

教育の場で、どんな内容を、どう教えるかという「古くて、新しい問題」にこれからもかかわっていくでしょう。ひとりひとり顔が違うように、考えていることも違う。そのひとりひとりを満足させることは、なかなか骨の折れる仕事です。こちらが考えているように、学生は反応してくれません。果たして、学生全員を満足させられる授業は可能でしょうか。教師の多くは無理だと答えるように思います。

しかし、情報・通信技術が「何か」を変えてくれるかもしれません。教師と学生、あるいは学生同士がうまく意思疎通がはかれるような設備が整えられていくことでしょう。